

研究誌「筑波大学特別支援教育研究」発刊に寄せて

前 筑波大学特別支援教育研究センター長
目白大学保健医療学部言語聴覚学科長 教授
齋藤 佐和

筑波大学特別支援教育研究センターは、障害児教育に関わる大学と附属学校との連携実現の場として平成16年度に誕生しましたが、研究誌はその連携の豊かな結実のため、特別支援教育に関わる教育実践と研究を、あるいは相互刺激的に、あるいは協同的、融合的に発信し合う場となることが期待されます。センターの事業の一つとして研究誌発行は当初からの懸案事項でありましたが、特別支援教育制度への移行が決定した今、時宜を得て発刊されることになり、大変うれしく思っております。

教育実践と研究の関係については常に「乖離」という問題点が指摘されがちですが、これは両者の関係を並行的に見る結果ではないかと思われまます。両者の関係は、話しことばと書きことばの関係に似ているのではないのでしょうか。生き活きた話しことば（実践）はすべての始まりです。それを記録するだけでなく、様々な視点から検討、考察し、場所・時代を離れた多くの人々の視点にさらして、意味ある、継承するに値する成果として洗練し、共有していくためには、書きことば（研究）が不可欠です。書きことばは話しことばから絶えずエネルギーを汲み上げて行かなければ枯渇します。一方、話しことばは書きことばによって絶えず内容の整理、深化、普遍化の努力を続けなければ質的に成長しません。教育実践と研究の間にこのような互いに高め合う関係が形成されるため、本誌が貢献することを強く期待しています。

視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、自閉症の教育を行う附属学校での実践を礎に、全国からセンターでの研修に来られた先生方の研修成果も含めて、本誌は今後の特別支援教育への展開を質的に支える多様な研究を次々に発信する場となるでしょう。末永い発展を心から祈ります。